

# 自分の可能性を信じて、 新たな道を切り拓きたい。

国際弁護士

鈴木美華

さん

創価大学法学部卒業  
ホワイト&ケース法律事務所

創価大学は、創立以来、累計で百十七名におよぶ司法試験合格者を輩出してきた。この実績は、全国の私大の中でもトップレベルの位置にある。現在、ホワイト&ケース法律事務所、おもに外資系企業のM&Aや企業法務、訴訟などを担当する鈴木美華さんもそのなかの一人だ。

「私にとって、司法試験は一つの挑戦でした。大学生活を楽しむだけでなく、一生に一度くらい、無理だと思えるようなことに本気で取り組んでみようと思ったんですね」

創価大学には、司法試験や公認会計士、国家公務員など、国家試験を必要とする資格や職業を目指す学生のために、「国家試験研究室」と呼ばれる支援システムがある。教員はもちろん試験に合格したばかりの現役の先輩たちが講師となって、おもしろい土・日を利用して、講義や少人数のゼミ、答案指導などを行っている。鈴木さんも、一年次

から「国家試験研究室」に所属した。しかし、クラブ活動などに時間をとられるうち、いつしか足が遠のいてしまった。

「そんなときに先輩から、『最近、顔を見ないけれど、どうしたの？』と声をかけられたんです。それで、どうも司法試験は私には向いていないように思うと答えました。すると、『人の使命というものは、どこかで決まっているものではなくて、自分で決めていくものなんだよ』と言われまして。いま思うと、この一言は大きかったです。先生方や先輩方には感謝しきれないほどお世話になりました。ただ、なかには女性には無理だからあきらめたほうがいいとアドバイスくださる方もいて、そう言われると、逆に、絶対合格してやるという気になりました」

困難が大きければ大きいほどがんばれる「負けじ魂」は、創価大学の伝統だ。卒業の翌年、創価大学で二人目の女性の司法試験合格者となる。弁護士登録後は、個人の訴訟などを手がける法律事務所に六年ほど勤務し

Suzuki Mika

教育の真価が問われるのは、二十年后、三十年後であるといわれます。創立以来三十五年、「学生のための大学」をモットーに歩んできた創価大学。このシリーズでは、多彩な分野で活躍する創価大学の卒業生たちの現在を追い、「創価教育」の真価に迫ります。

たのち、渡米。ロースクールに二年間学んで、ニューヨーク州の司法試験に合格し、現在にいたる。世界各地にオフィスをもつホワイト&ケースの仕事は、ときにワールドワイドな広がりをもつ。

「外資系企業の方々の要求は、ハイレベルでスピードも速い。日本と海外の法習慣の違いなどを超えて、クライアントに満足していただける結果が出せたときはうれしいですね。私は、もともと英語もすごく苦手だったんです。でも、十代、二十代は、本気になれば、どんな人生でも開いていける時期だと思います。自分の可能性を信じて、挑戦していくことが大事じゃないでしょうか。私にとって、そうしたきっかけや場を与えてくれたのが、創価大学でした」

常に何か目標を設定し、自分を高める努力をしていきたいという鈴木さん。

「おこがましいかもしれませんが、後輩のために少しでも新たな道を切り拓いていけたらいいと思っています」



すずき・みか / 1986年創価大学法学部卒業。87年司法試験合格。90年猪熊重二法律事務所勤務。98年米インディアナ大学ロースクール法学修士課程(LL.M)修了。ニューヨーク市の法律事務所に勤務。同年ニューヨーク州司法試験合格。99年帰国。ホワイト&ケース法律事務所に勤務。2003年より同所パートナー。

学生のための大学—  
**創価大学**

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236  
Tel.0426-91-2215 http://www.soka.ac.jp/

Soka Report | 創立者の軌跡 | 平和・文化・教育の世紀へ ①

創価大学は、イギリスのグラスゴー大学や中国の北京大学、ロシアのモスクワ大学など、海外42カ国・地域の92大学と協定を結び盛んな交流を行っている。

その基礎となったのは、創立者である池田大作SGI(創価学会国際ナショナル)会長が1960年代からはじめた各国の指導者、学識者との「対話」である。72

年から2年間にわたって対談した歴史学者トインビー博士は、その対談の意味を「人類のため、これからも世界の知性との対話を続けて欲しい」と語っている。

